

中国上海市高齢者福祉施設の運営におけるソーシャルワーカーの実践機能と課題

○ 東洋大学 孫心悦 (009726)

キーワード：ソーシャルワーカーの機能、官民関係、中国の高齢者福祉施設

1. 研究目的

中国における高齢化の進行に伴い、高齢者福祉施設や介護サービスの拡充が急務となっており、その推進が重要な課題となっている。しかし、中国の高齢者福祉分野における政策は依然としてトップダウン方式であり、サービス提供の柔軟性や地域特性を反映しきれない可能性があり、現場の実態に即した支援の提供が困難となっている。そのため、高齢者福祉施設を運営する際には、行政と民間が連携し、官民協働の体制を確立することが必要である。その協働体制を構築するためには、両者の間に立って中立的な立場で調整を行う機関や組織の育成が重要となる。この調整機能を果たすのがソーシャルワークであり、中国の社会情勢においてその機能は非常に重要である。

しかし、中国のソーシャルワークの発展は他国と比較して遅れており、特に高齢者福祉分野におけるソーシャルワーカーの位置づけや機能が不明確である。実際の行政依存型の実践現場において、ソーシャルワーカーがどのように活動しているのか、また行政との関係性はどうなっているのか、その機能や活動範囲は未だに十分に明確化されていない。そのため、ソーシャルワーカーが高齢者福祉の推進において果たすべき具体的な役割が見えづらくなっている。行政機関と民間事業者を総合的にコーディネートし、民間の主体的な実践を推進するためには、現在の中国における高齢者福祉施設の運営におけるソーシャルワークの機能と位置づけを明確にする必要がある。

そこで本研究では、行政のトップダウン方式の枠組みの中で、中国都市部における高齢者福祉施設の運営において、現在ソーシャルワーカーが果たしている機能と課題を明らかにする。そのうえで、高齢者福祉事業のさらなる発展を促進するために求められるソーシャルワークの機能を考察することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、中国の高齢者福祉施設において、現在ソーシャルワーカーが果たしている機能と課題を明らかにするため、公営高齢者入所施設におけるソーシャルワーク部門のソーシャルワーカー（職業年数3年以上）8名を対象に、1人1時間半から2時間程度の聞き取り調査を行った。

本研究の対象として、行政の影響が強く現れる場所である公営高齢者入所施設のソーシャルワーカーを選定した。ソーシャルワーカーと行政の関係性という視点から、ソーシャルワーカーの機能や行政との相互作用を深く掘り下げることで、中国における高齢者福祉の実態と、ソーシャルワークの今後の展望に向けた示唆を得ることを目指す。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮について、調査対象者に事前に研究趣旨と内容を口頭で説明し、かつ本研究の説明書を渡した。対象者から同意書を得て、筆記方式でメモを取り、すべて IC レコーダーに録音した。調査データの学会発表・研究論文執筆への利用に関しても同意書に明記し、対象者から同意を得た。本研究は東洋大学福祉社会デザイン学部研究等倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：F2024-002S）。また、本報告に関連して開示すべき COI 関係にある企業等はない。

4. 研究結果

インタビューにおける語りを通して、中国都市部における高齢者福祉施設の運営において、現在ソーシャルワーカーが果たしている機能と課題については、33 つの定性的コードが生成され、サービス提供者、行政機関、利用者との相互作用における複雑な課題を反映している。これらのコードを分析することで、15 つの焦点的コードが抽出され、専門職としての役割の曖昧化、行政主導の影響、サービスの質と資源の限界、地域ガバナンスにおける協力の欠如、そして制度的な不均衡といった課題が明らかにした。さらに、【社会福祉専門職としての機能の曖昧化】【サービス供給と資源の制約】【地域ガバナンスの困難性】【ソーシャルワーカーのレジリエンス】【制度・構造的矛盾】という 5 つの概念的カテゴリーに集約し、現在の中国都市部における高齢者福祉施設が抱える課題と、それに対するソーシャルワーカーの適応と取り組みを明らかにした。

5. 考察

本研究は、中国上海市高齢者福祉施設の運営におけるソーシャルワーカーの機能と課題について明らかにした。そのうえで、本研究の考察を以下の 3 点に整理する。

第一に、ソーシャルワーカーの専門的機能が行政システムに取り込まれ、行政補完的な役割に変質している。本来、ソーシャルワーカーは利用者の生活支援や心理的ケア、個別支援計画の策定を担当すべき専門職であるが、実際には人手不足の行政機関を支援する補助職として位置付けられ、政治的な任務が優先されていることが多い。このため、専門性が軽視され、政策や上司の意向に従属せざるを得ない状況が生まれている。

第二に、制度設計が利用者のニーズとサービス提供の間に断絶を生んでいる。戸籍制度の壁や介護保険の制約により、実際の生活実態と制度が乖離しており、現場の柔軟な対応が難しくなっている。制度の評価指標が形式主義的に運用され、現場の創意工夫が抑制されるため、実際のニーズに応じた対応が困難になっている。

第三に、ソーシャルワーカーが制度的な制約がある中で、創造的な実践を通じて利用者の生活の質を守ろうとするレジリエンス的な対応を見せている。ソーシャルワーカーたちは制度の限界を認識し、創意工夫を加えることで専門職としての機能を発揮しようとしている。これらの取り組みは、制度の硬直性に対する現場からの応答であり、現代中国の福祉現場における重要な社会的現象と評価できる。